

第3種郵便物認可
12年、当時私がかわっていた新人文賞の選考の際にも、じつは同じ印象を持った。現実世界ではなく、異界や架空の場所や遠い未来を舞台にした応募作が増えた。

東日本大震災の起きた2011年、12年、当時私がかわっていた新人文賞の選考の際にも、じつは同じ印象を持った。現実世界ではなく、異界や架空の場所や遠い未来を舞台にした応募作が増えた。



作者自身の姿映す作品

作家・角田 光代さん

大きな災害や事件は、書き手に自覚があるかないかにかかわらず、小説に影響を与えるのだ。今回あらゆイルスのニュースが広がりはじめ、感染拡大防止のため、4月7日から緊急事態宣言が出され、私たちの日常は一変してしまった。神奈川県では5月25日に緊急事態宣言が解除されたとのことなので、もしかしたら家にこもっている間に応じたと想像する。というのも、昨年非日常、不思議な世界を舞台にした小説が多かった。そして、なぜかかなしみを帶びた小説も多い。感じた。

東日本大震災の起きた2011年、12年、当時私がかわっていた新人文賞の選考の際にも、じつは同じ印象を持った。現実世界ではなく、異界や架空の場所や遠い未来を舞台にした応募作が増えた。

審査員講評

大きな災害や事件は、書き手に自覚があるかないかにかかわらず、小説に影響を与えるのだ。今回あらゆイルスのニュースが広がりはじめ、感染拡大防止のため、4月7日から緊急事態宣言が出され、私たちの日常は一変してしまった。神奈川県では5月25日に緊急事態宣言が解除されたとのことなので、もしかしたら家にこもっている間に応じたと想像する。というのも、昨年非日常、不思議な世界を舞台にした小説が多かった。そして、なぜかかなしみを帶びた小説も多い。感じた。

東日本大震災の起きた2011年、12年、当時私がかわっていた新人文賞の選考の際にも、じつは同じ印象を持った。現実世界ではなく、異界や架空の場所や遠い未来を舞台にした応募作が増えた。



心の底に降りた言葉を

詩人・金井 雄二さん

今回のすべての応募小説は、受賞作も佳作も、あるいはどちらにも選ばれなかつた作品も、この未曾有の事態に直面している作者自身の姿を見て、この先も、人々とともに変化しながら生き延びていくのだと思ふ。さて、小説は生きている人々に寄り添って書かれ、また読み継がれていたのであるが、生まれ故郷で得られた一番の喜びです。角田光代先生、そして関係者の方々に深く感謝いたします。

今回の応募作品では小学生から、90代の方まで幅が広かつた。学校単位での応募もあった。強制でなければ、それは底辺が拡大したといふとであつて、単純に詩を書く人が増えたことが喜ばしい。

今回の応募作品では小学生から、90代の方まで幅が広かつた。学校単位での応募もあった。強制でなければ、これは底辺が拡大したといふとであつて、単純に詩を書く人が増えたことが喜ばしい。

共同通信社
日本新聞博物館
企画写真展

2020
10/3土▶12/20日

ニュースパーク(日本新聞博物館) 2階 企画展示室



開館時間：10:00~16:30 (入館は16:00まで)
※新型コロナウイルス対応
休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日)
入館料(税込)：一般=400円 大学生=300円
高校生=200円 中学生以下=無料

(アクセス)
●みなみみらい線「日本大通り駅」3番出口(博文センター口)直結
●JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
●横浜市営バス「日本大通り駅前」徒歩1分
●観光スポット周遊バス「あかいくつ」日本大通り下車正面
●首都高速「横浜公園出口」から約3分
(横浜情報文化センター・駐車場・日本大通り地下駐車場をご利用ください)

N ニュースパーク
日本新聞博物館
〒231-8311
神奈川県横浜市中区日本大通11
横浜情報文化センター内
TEL: 045-661-2040 FAX: 045-661-2029
[https://newspark.jp](http://newspark.jp)



2018年 北海道旭川市



2018年 宮城県石巻市



2018年 福島県双葉町



■主催 共同通信社、ニュースパーク(日本新聞博物館)
■後援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会
■協賛 大塚製薬工場、大塚オーミ陶業、株式会社ニコンイメージングジャパン

短編小説

最優秀
「葡萄と煮物」



保科 史歩(村上 詩歩)さん
◆ 横浜市港北区

10代の最後に
故郷での朗報
しばらば嬉しさが
私の理解を追い越し
て、自分がこのような
賞をいたいたいという
実感が湧きました
た。あと千日で20歳
を迎えたうちには
東京へ飛び出して行く
であろう私が、生まれ
故郷で得られた一番の
喜びです。角田光代先
生、そして関係者の方々に
深く感謝いたします。

*カッコ内は本名

佳作 = 敬称略 =

「行人坂」
吉本衆(大島一昭)(22)
◆ 横浜市青葉区

「ねえちゃんとおふさにはいってる?」
浅野萬(浅野北斗)(37)
◆ 横浜市西区

「宮ヶ瀬の幻影」
相川和彦(愛川一彦)(46)
◆ 横浜市高津区

「路を泳ぐ魚」
小石珠(岸尚子)(41)
◆ 川崎市高津区

「まるをなぐる」
荒井浩平(34)
◆ 横浜市都筑区

「ずっと幻」
柏崎志津香(38)
◆ 小田原市

「サバイバルランナー」
美村佳奈子(33)
◆ 横須賀市

最優秀
「朝方の夢」
国広知恵子(国広智恵子)さん
◆ 横浜市港北区



目標としていた賞を
受賞することができ、
これ以上の喜びはありません。今回の受賞を
励みに、詩を書き続け
て参ります。選んでく
ださった金井雄二先
生、コンクールの関係
者の方々、いつも応援
してくれる家族、友人
に心より感謝申し上げ
ます。ありがとうございました。

*カッコ内は本名

佳作 = 敬称略 =

「パイプ椅子と夕日」
川久保朝香(35)
◆ 横浜市緑区

「布巾」
山口真喜(72)
◆ 藤沢市

「裏鼠」
いしかわつよし(石川毅)(52)
◆ 横浜市鶴見区

「あの話」
武内しゅり(武内珠里)(16)
◆ 横浜市中区

「2020春」
みや(宮原純)(55)
◆ 逗子市

「五月の校庭」
ハタナカ・カナ太(岩野直樹)(21)
◆ 伊勢原市

「2020春」
みや(宮原純)(55)
◆ 逗子市

「五月の校庭」
武重路子(71)
◆ 逗子市

「五月の校庭」
伊勢原市

両部門の最優秀作品は9日に掲載します

第50回

神奈川新聞 文芸コンクール

本社主催の第50回文芸コンクールの入選作が決まった。過去最多の応募となった節目の開催で最優秀に輝いたのは、短編小説部門が保科史歩さん(19)・横浜市港北区の「葡萄と煮物」、現代詩部門が国広知恵子さん(58)が務めた。

佳作は一覧の通り。応募数は小説が274編(前回比91編増)、詩が348編(同134編増)で、いずれも過去最多を記録した。応募期間が予期せぬ感染症の世界的流行となり、「巣ごもり」を強いられた人たちが創作に向かったことも一因かもしれない。

賞金は、最優秀は小説が30万円、詩が10万円。佳作は小説が3万円、詩が1万円。

同時期、書店では本を何冊も抱えてレジに並ぶ客の姿が見られた。フランスの作家アルベル・カミュの「ペスト」が70年の時を経て注目されたように、物語に「真実」を求めることの意義は深まるはずだ。

授賞式は11月14日に横浜市中区のニュースパーク(日本新聞博物館)で開催する。新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、関係者のみで行い、例年開催している審査員による講評会は行わない。